

みんなの図書館

発行日 令和5年7月5日(水) (年4回発行)

第69号



発行者 木更津市立図書館

木更津市文京2-6-51

TEL 0438-22-3190

FAX 0438-22-7509

令和5年3月をもって松井館長は異動となりました。松井館長、1年間本当にありがとうございました。そして4月からは松本館長が図書館長として就任されました。

ごあいさつ 館長 松本 明子

このたび、令和5年4月1日付けの定期異動により、図書館長として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

着任してまず感じたことは、図書館がいかに市民の皆様に「個人の学び」を提供している場であるかということでした。あらゆる世代の皆様が思い思いの本や資料を手に取りご覧になっており、土日ともなると、テーマパークに訪れるかのように家族連れで来館し、館内に常設しているかごに満載した本を笑顔で借りて行かれます。その様子を見ているだけで嬉しい気持ちになります。

さて、着任して早々、近年実用書一辺倒だった私に、素敵な機会をいただきました。図書館は、令和5年度文芸講演会を3月12日に開催しておりますが、このときの講師で作家の乗代雄介氏が盤洲干潟クリーン作戦参加と市長に面会をすることになり、お会いすることになったのです。

急ぎ著書「パパイヤ・ママイヤ」を購入し、久しぶりに小説を読破しました。木更津の盤洲干潟を舞台に書かれた17歳の登場人物の瑞々しい描写がまるで映画を観ているかのようで、何より私がおの場所を知っていたこともあり、臨場感にあふれ読後の余韻に浸りました。

迎えた当日、著者と一緒に盤洲干潟を歩きながら、著書にまつわるエピソードを伺えたことは、小説「パパイヤ・ママイヤ」を多層的に理解することが出来る貴重な経験をさせていただきました。木更津に30日以上滞在してあちこち歩いたり、干潟に何度も来て潮の満ち引きを見て感じ取ったりと、大概の作家は1~2日の滞在で確認して執筆されるところ、乗代雄介氏は「なんなら執筆も干潟で」執筆をされたとのこと。また、10年間進学塾の講師をしていたとのことで、登場人物の若者の自然な会話にも納得しました。

そして、「ちぎり絵を貼り、紙の隙間を埋めていくように、登場する全ての事柄のパーツをつなぐ作業ができた」今回の作品は、乗代雄介氏の今後の作家活動の礎となり自信につながったとのことでした。穏やかで気さくな氏は、ご自身の興味のあることが木更津には揃っているとのこと、今後も定期的に木更津を訪れたいとのことでした。また、木更津を舞台に小説を書いていただけなら嬉しいですね(詳細は、図書館ホームページに掲載していますので是非ご覧ください)。これからも「本が身近にある生活」を提供させていただけるよう、図書館職員一同市民の皆様に寄り添ってまいります。

今年度新しくはじめる事業を紹介します！

大人のための絵本セラピー

大人になった今だからこそ読んでもらうことで気づくことがある…
絵本セラピストを講師に迎え、読み聞かせを体験したあとで、その感想などを
参加者同士で話し合い、新たな気づきが生まれるきっかけづくりの場とします。
大人になっても絵本を読んでもらうことは楽しいので、お気軽にご参加ください。
秋頃の開催を予定しています。詳しいことは館内ポスターやホームページでご案内します。



高齢者サービス

図書館では大きな活字で書かれた大活字本を積極的に収集しています。そのほか、電子図書も拡大機能がついているなど、幅広い世代に楽しんでもらえます。
今年度は大活字本や電子図書サービスの利用を高齢者施設へ呼びかけ、読書環境の向上を目指します。

パスファインダー(調べ案内)作成

パスファインダーとは、あるテーマについて、資料や情報を探すための参考になる手引書のようなものです。

パスファインダーをきっかけに、レファレンスサービス(利用者の調査のお手伝い)を多くの人に知ってもらい、気軽に利用してもらえるよう、ついに木更津市立図書館でも作成に着手しました。特に質問の多い郷土資料関係のパスファインダーから配布予定です。

.....

作家・乗代雄介さんとのあれこれ



昨年度、文芸講演会でお招きした乗代雄介さんですが、文芸講演会のあとも木更津にお越しくださり、ご縁が続いています。

◀◀ 渡辺市長(左)と乗代さん(右)

5月21日に開催された「干潟クリーン作戦」では、『パパイヤ・ママイヤ』の舞台となった干潟でゴミ拾いと観察会に参加されました。

その後も渡辺市長と面会し、干潟や長須賀のはす田をはじめとする木更津市内の風景についてお話が弾みました。



詳細が掲載されている図書館のホームページはこちらからご覧になれます。➡



大活字本をご寄附いただきました！

昨年度末、株式会社千葉興業銀行様と綜和熱学工業株式会社様より、「ちば興銀 SDGs 私募債」の制度を活用した図書の寄贈を受け、令和5年4月28日に、図書館にて寄贈式を執り行いました。

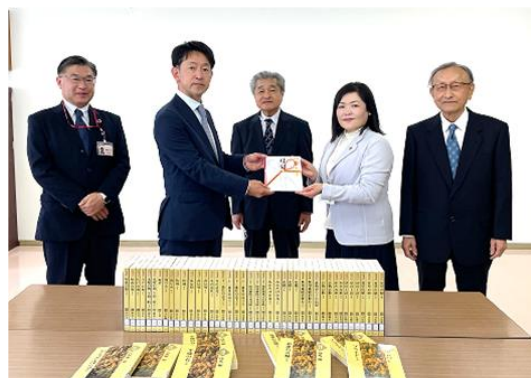
寄贈式では、今回ご寄付いただいた大活字本を手に取りながら、和田取締役会長より「幅広い世代の方の読書支援に寄与することができ光栄に思います」との言葉がありました。

木更津市も共生化社会の実現に向け、様々な取り組みをしている中で、大活字本の寄贈はまさに時代に即したものであり、たくさんの利用がされることを期待しています。

大活字本とは、視力の弱い方や、高齢者で文字が読みづらくなった方にも読みやすいように、文字の大きさや行間等を調整し、大きな活字で組みなおした本です。
(埼玉福祉会ホームページより)

写真左より

鳥海浩之木更津支店長
和田啓代表取締役
和田健取締役 相談役
松本明子図書館長
和田洋夫取締役会長



このところ雑誌の休刊や廃刊が多く、雑誌棚がさみしくなっていました。7月から新たに2冊の雑誌を購入することになりました。選定にあたっては、テーマが似ている雑誌がない中から、

- ① Tarzan (2023年7月13日号から)
- ② おとなの週末 (2023年7月号から) の2誌が決定しました。

『Tarzan』は「男性を中心ターゲットにした健康情報系のライフスタイル誌」(公式ホームページより)ですが、体を鍛えることが好きな方なら男女問わず楽しめると思います。『おとなの週末』は『食・街・酒・旅』の4つのテーマを掘り下げた、食にこだわりのあるおとなのための情報誌(出版社ホームページより)です。週末が楽しみになるような、素敵なお店等がたくさん掲載されています。是非どちらの雑誌もお手に取ってみてくださいね。

《レファレンス・トリビア》

Q 子どもの頃は1年を長く感じたのに、大人になると短く感じてしまうのが何故なのか？

A 確かに、大人になると1年は短く感じます！今までなんとなくそういうものなのかと思っていましたが、本にその理由が載っているなら読んでみたいですね。参考書籍を確認する前に念のため、「大人」と「短い」、「時間」と「短い」などで掛け合わせて検索をしましたが、当館の本は残念ながら1冊もヒットしませんでした。

実際は同じ1年なのに、子どもと大人で感じかたが違う……。これは心理学の分野でしょうか？『最新心理学事典』を確認してみます。事典から「時間」の項目を確認してみると、「時間知覚」という言葉が掲載されていました！おおー、何だかそれっぽい！早速説明文を読んでみましょう！

「……時間知覚は多感覚からの情報に基づいて形成される。このように考えると、時間知覚は事象近くや感覚間相互作用と組み合わせて理解する必要がある」

おおー……。何だか難しい……。

こちらの事典を質問者の方にご覧いただければレファレンスとして完結ではあるのですが、もうちょっとわかりやすい本もご用意できたほうがベターです。

ここでふと「時間知覚」で図書館システムを改めて検索してみました。すると……。

1. 時間はなぜあるのか？ 平田 聡 // 著 嶋田 珠巳 // 著
2. 今さら聞けない時間の超基本 二間瀬 敏史 // 監修 吉武 麻子 // 監修
3. 大人になると、なぜ1年が短くなるのか？ 一川誠 // 著 池上彰 // 著
4. 一年は、なぜ年々速くなるのか 竹内薫 // 著

いや、こんなにあるのかい！

特に3冊目が池上彰さんの著作でわかりやすそうです。質問者の方にはこちらを提供いたしました。同じ本でも検索用語でヒットしたりしなかったり。検索一つでも決しておろそかにしてはいけないなと思いました。(執筆：マル)

<参考資料>

「最新心理学事典」 内田伸子 // 責任編集 繁樹算男 // 責任編集 杉山憲司 // 責任編集
藤永保 // 監修 平凡社 2013

「大人になると、なぜ1年が短くなるのか？」 一川誠 // 著 池上彰 // 著 宝島社 2015

編集後記

発行が大変遅くなってしまい申し訳ありませんでした。まず6月中に発行できなかったことをまーさんと相談していましたが、その相談をしている内にまーさんが異動になってしまいました。夏休みの事業も始まります！……そんなこんなで作りあげましたのが「みんなの図書館」の69号です。楽しんで頂けたら幸いです。(マル)